

令和5年度 校内研修実施計画書

1 研究主題および教科

研究主題

主体的に学び合い、表現する子を育成する授業づくり～国語科を中心に～(3年目)

2 主題設定の理由

2-1 学校教育目標と研究主題との関わり

本校は、知の教育、心の教育、命と根っこの教育を通して、学校教育目標「すべての子どもたちに居場所をつくり、生きる意欲を育む」の実現に向けた教育活動を推進している。知の教育においてこれまでの研究や実践と学校教育目標との関わりは次のようである。

○ 主体的に学び合う「8つのたい」

「見たい」「知りたい」「考えたい」「伝えたい」

「聴きたい」「読みたい」「書きたい」「活用したい」

子ども達が、安心できる関係の中で、「〇〇したい」という意欲をもって教育活動に取り組むことで、自分のもつ力を発揮し、高め合ったり、認めたり認められたりする経験を重ねることができる。主体的に学ぶ姿勢が身につくことで、自信をつけたり、集団の中で手ごたえを感じたりすることができ、やがては自分の居場所を実感できる子どもに育つのではないかと考えられる。

○ 表現する

自分で考えたことや仲間との対話を通して感じたことや学んだことを伝え合ったり、聴き合ったりすることで、自信を深めたり、仲間とのつながりをより強く感じたりすることが期待できる。こうした経験の継続によって、自ら学ぶことや仲間と関わることへの意欲が高まり、やがては生きる意欲を育むことにつながると思う。

2-2 今年度の研究について

研究の切り口となる教科は、昨年度と引き続き国語科とする。国語科は、子ども達が言葉による見方・考え方を働かせ、様々な言語活動を通して、国語で正確に適切に、そして豊かに表現できるようになることを目標とする教科である。

これまでの研究で培ってきた「学び合い」を土台とし、日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使えるようにするとともに、日常生活における仲間との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことができれば、主体的に学び、表現することの喜びを感じられる子ども達を育成することができると思うからである。

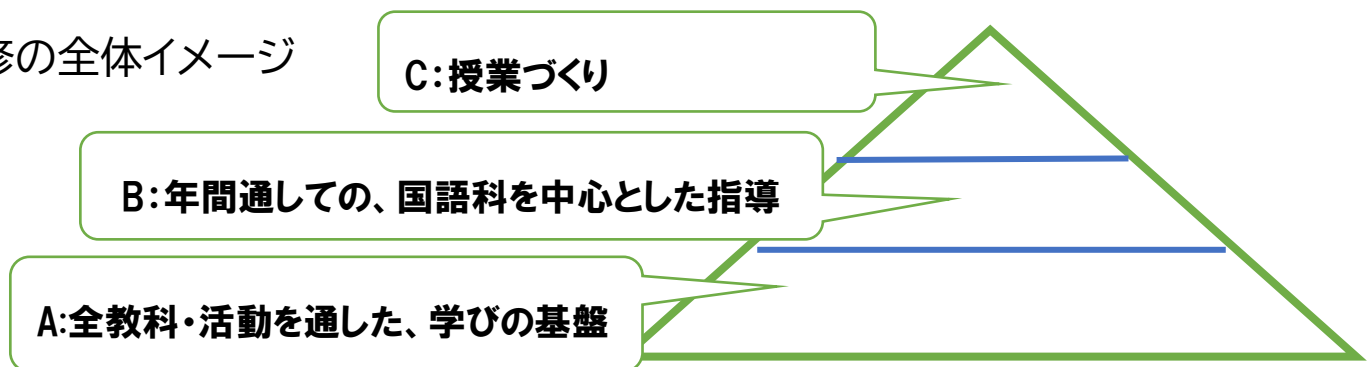
また、子ども達が、言葉のもつよさを認識し、正しい言語感覚を身につけ、国語の大切さを

実感することによって、他教科での言語活動の充実や語彙及び基礎的な知識や技能の獲得や定着にもつながることが期待できるからである。

ただし、主体的に学ぶ姿勢や表現することへの喜びを実感させることは、国語科の授業のみで実現されるものではない。また、教科担任制についても、その特色を生かした上で、研究主題と関わった授業実践をしていきたいと考えている。

3 研究内容及び方法

研修の全体イメージ



A: 全教科・活動を通した学びの基盤・・・【どのような場を設定できるか】

①話す

【日常的な発表、朝の会帰りの会でのスピーチ、総合など調べ学習の発表(報告)、話型の活用・委員会・集会など】

- ・指名されたら、「はいっ」と返事をして起立して発言する。
- ・「～です。」「～だと思えます。」等、単語ではなく文の語尾まで話す。
- ・伝える相手を意識して(目を見る、体を向けるなど)、伝わる声の大きさ、速さで話す。
- ・考えの説明には、「まず、次に、そして、だから」などの言葉や、学習用語を用いて説明する。
- ・「いろいろな」などではなく、具体的な例を挙げて話す。
- ・考えを述べるときは理由も添え、「理由は」と「～からです」をセットで話す。

②聴く

【メモをとらせる・発言に対する問い返し・関連図書のよみきかせ】

- ・話し手はゆっくり簡潔に話す。
- ・集中して話が聞ける環境を整える。(不必要なものは片づける、手を膝に置いて姿勢を正すなど)

スキル		具体的な子どもたちの言葉や必要な語彙
共感的な反応(あいづち)ができる。	共感	「うんうん」「なるほど」「え、そうかな」等
聞いたことをリピートできる。	反復・再生	「〇〇さんは、～と言っていたでしょ」等
聞いたことを受けて自分なりの答えが言える。(Yes、Noを含む) 聞いたことを受けて、話ができる。	選択・比較 類推・展開	「私はその意見に賛成で、～だと思います」 「私はその意見と違って～と思います」 「今の意見を聞いて、私は～だと思いました」等
聞いたことの中から、伝えたいこと(要点)をとらえ、わかりやすく話すことができる。	要約 焦点化	「つまり、〇〇さんの言いたかったことは～だと思えます」等
聞いたことを生かして、自分の考えをまとめることができる。	発展 深化	「みんなの話を聴いて、私は最初と意見が変わって、～について～と考えました」等

③書く

【日記(あのね帳)・作文・授業中に自分の考えを書く・授業の振り返り・スピーチ原稿】

- ・ノートには下敷きを入れる。
- ・線を引くときには定規を使う。
- ・考えの説明には、「まず、次に、そして、だから」などの言葉や、学習用語を用いて説明する。
- ・「いろいろな」など抽象的な言葉ではなく、具体的な例を挙げて書く。
- ・考えを書くときは理由も添えるようにし、「理由は」と「～からです」をセットで使う。
- ・既習の漢字は使う。(指導者も把握しておく)

④主体的な学習【IINOTE(3年生以上)・関連図書の読書】

- ・宿題や、授業中のすきま時間などに取り組みさせる。
- ・4月提案の「自主学習の進め方」を活用して、どのように取り組みればよいかを指導する。
- ・指導者がメッセージを書く、書画カメラで投影する、コピーして掲示する、通信で紹介するなど、評価方法を工夫し、ほかの児童の取り組みの参考になるようにする。

B:年間通しての、国語科を中心とした指導

①読解力の向上 ※重点項目

- ・根拠となる言葉や文を常に意識させる。例えば、線を引いたり、ノートに書きだしたりする。
- ・音読指導に丁寧に取り組む。読解の第一歩。
 - ・間違えずに、すらすら正しく読む。(レベル1)
 - ・言葉のまとまりを意識しながら、「、」や「。」に気を付けて読む。(レベル2)
 - ・言葉の意味や、登場人物の気持ちを考えて、それを音読で表現する。(レベル3)

- ・特に中学年ぐらいまでは、動作化を入れることによって、言葉の意味をとらえたり状況をつかむことができたりするなど、理解を深めることができる。

②語彙力向上(ひらがなカタカナ指導・国語辞典・ことばの宝箱の活用)

- ・新しいひらがなを習う際に、そのひらがなを使う言葉集めをしたり、漢字ドリルに出てくる熟語の意味を確かめたり調べたりする。
- ・国語辞典を引くことで、語彙を増やし、一つの言葉にもいろいろな意味があることがわかる。
- ・同じページに載っている他の言葉に出会うことで、さらに語彙を増やすことができる。
- ・国語辞典活用例：意味調べ、コトバト、辞書を読書、ペアで辞書引きしりとり 等
- ・教科書巻末の言葉の宝箱を印刷や掲示するなどして、書くときに活用できるようにする。
- ・言葉の宝箱に載っている言葉の意味を調べたり、その言葉を使った例文を作ったりする。

③漢字の定着(漢字指導)

【漢字指導の工夫(前年度研修会でできた取り組み)】

- ・宿題で間違いが多かった字について、全体で確かめなおす。
- ・漢字テストの後、すぐに振り返りをする。(正しい漢字を確認する)
- ・呪文や歌など興味を持たせると覚えやすい。
- ・指書きや空書き、体全体で書き順の練習をさせることで脳に刺激を与える。
- ・ミニテストの裏に、漢字を使った文を書かせる。
- ・書き順の決まりを教える。
- ・熟語は訓読みで意味をつかませる。(同音異義語の指導にも)
- ・部首の意味を確認し、部分の組み合わせで覚えさせる。

④読書の量と質の向上

- ・毎週月曜の朝学の時間を、読書に設定する。一週間の始まりを落ち着いて過ごす狙いもある。
- ・図書巡回指導員と連携しながら、関連図書の読み聞かせをしたり、学年貸出をしたりして、児童が手に取りやすい環境を整える。
- ・PTA と連携をし、学級文庫の充実を図る。
- ・お家で読書、読書郵便など、読書推進の取り組み。
- ・貸し出しの時に、その児童の入学からの貸し出し冊数の総数を伝えたり、学習に関連した本がどこにあるかを示したりすることで、もっと読もう、読んでみようという意欲につながる。

⑤ICT 活用

- ・各学年でつけるべき力を確認したうえで、持ち帰りも含め日常的に端末を活用していく。
- ・クラス間で活用頻度や活用内容に差ができないよう、配慮・工夫する。
- ・ミニ研修会などを開催し、実践例を交流していく。

⑥1～4年生：読む・書くワークシート、5・6年生：よむ YOMU ワークシート

- ・答えの根拠となる部分に下線を引く。
- ・教委特設サイト内の「指導資料」「指導例動画」を確認の上実施する。

⑦学 Viva セット(主に4年生以上)

- ・学調、みえスタに準じた問題になっている。ダウンロードもできる。学年で一人がダウンロードし、全クラスのオクリンクに貼り付ける方法もある。(学年で共通した指導・手間の削減)
- ・学調、みえスタの結果の分析後、学年の弱みをフォローアップするために活用していく。

C:授業づくり

研究授業のテーマ

学年間の系統性を踏まえたうえで、その単元の指導事項を、子どもたちが主体的に学ぶことができるための工夫について研究する。(説明文)

昨年度の取り組み

- ・「この単元では〇〇ができるようになる」、つまり、指導者がつけたい力(ねらい)を明確にした上で、子どもたちに「単元のめあて」(単元を貫く言語活動)を意識させる。
- ・単元のめあてに向けて必要な学習活動を子どもたちと共有し、学習の見通しを持たせる。(学習計画の作成)
- ・授業の中に、既習内容やスキルを活かす学習活動を積極的に組み込む。

提案授業について

- ・低中高で1本ずつ指導主事を招聘して全体提案授業を実施。
 - 6月26日(月) 3年生 こまを楽しむ
 - 9月27日(水) 2年生 動物園のじゅうい
 - 11月30日(木) 5年生 固有種が教えてくれること ※6限目カット
- ・提案学年は、指導案、学習計画、座席表を事前に準備する。
- ・専科およびひまわり担任も、担当教科で、「主題」および「めざす子どもの姿」に沿った授業をする。
- ・児童の実態やそれに合わせた指導については、指導案の中で具体的に触れていく。
- ・全体提案をしない学年は、国語での学年部研は実施せず、人権の授業提案をする。
- ・授業の後は、実践報告を作成する。(締め切り1月ごろ)

めざす子どもの姿

- ・「知りたい! 考えたい!」という意欲をもち、「分かった! 生かすことができた!」という実感を得るために、まず自分の考えをもち、仲間に伝えたり、仲間の考えを聴き合ったり読み合ったりする活動を通して、自分の思いや考えを見直したり、確かなものにしたりする子
- ・自ら生活経験や既習事項を振り返り、問題解決への姿勢を高めたり、学び合いを通して得た実感や理解から、後の学習への関心を広げ、課題を見いだして、自ら学びをすすめたりする子

年間計画 5月25日(木)現在

一学期	4月5日(水) 学級開き・授業開きに向けて 学習規律について 5月24日(水) 研究方針・具体的方策等の確認検討 6月26日(月) 全体研修会 3年生研究授業・事後検討会 8月2日(水) 校内研修会 8月24日(木) 校内研修会
二学期	9月27日(水) 全体研修会 2年生研究授業・事後検討会 11月30日(木) 全体研修会 5年生研究授業・事後検討会
三学期	2月23日(金) 研究の総括 3月11日(月) 来年度の方針